

『信じることへの招き』 ヨハネ3:11-16

3:11 よくよく言うておく。わたしたちは自分の知っていることを語り、また自分の見たことをあかししているのに、あなたがたはわたしたちのあかしを受けいれない。

3:12 わたしが地上のことを語っているのに、あなたがたが信じないならば、天上のことを語った場合、どうしてそれを信じるだろうか。

3:13 天から下ってきた者、すなわち人の子のほかには、だれも天に上った者はない。

3:14 そして、ちょうどモーセが荒野でへびを上げたように、人の子もまた上げられなければならない。

3:15 それは彼を信じる者が、すべて永遠の命を得るためである」。

3:16 神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。

○序論

「おどろくばかりの」。アメイジング・グレイス

「なぜこの曲は、多くの歌手に歌われ、また人の「心を打つ」のか？」

1. メロディの美しさ:
2. 情緒的な歌詞:
3. 豊かな表現力:
4. 歴史的な意義: アメイジング・グレイスは、18世紀にスコットランドの聖職者であるジョン・ニュートンによって作られました。その歴史的な背景や作者の人生体験は、歌に対する興味や共感を高める要素となります。

これほど「心を打つ」理由。そこにはジョン・ニュートンの救いの経験があった。そして、これは、全ての人の中に訴える霊的な感動を呼ぶものなのです。そこには、彼が信仰によって恵みによって受け取った驚くばかりの恵みがあるのだと。

1. 驚くばかりの神の恵み 何と美しい響きでしょう。
神さまの恵みによって、わたしのようなみじめな人間も救われました。
昔は道に迷っていましたが、今は神さまがわたしを見つけてくださいました。
今まで見えなかった神の恵みを 今は見出すことができます。
2. 神さまの恵みによって、わたしは神さまをおそれることを知りました。
神さまの恵みによって、わたしは心の不安をなくすことができました。
信じる事を始めたその時の 神の恵みのなんと尊いことか。
3. これまで数多くの危機や苦しみ 誘惑があったが
私を救い導きたもうたのは 他でもない神の恵みであった

...

この彼のすべての体験を、今日の一番最後の聖句がそれを表しています。

3:16 神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命（祝福）を得るためである。

○本論

I. キリストの言葉を聴く

前々回「一番知ってほしいこと」として「新しく生まれること」についてお話ししました。ユダヤ人の高名な教師であるニコデモにこうイエスさまは言われました。

3:3 …「よくよくあなたに言うておく。だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない」。

ニコデモの知識と経験で聞かならば、それはもう一度お母さんのおなかに戻って生まれ直すということに聞こえました。

でもイエスさまは、それを「霊の事柄」として語られました。

3:5 …「よくよくあなたに言うておく。だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない。…

霊の事柄は、わたしと神さまとの関係について語っていることに気づかされます。

つまり、新しく生まれるということを知りやすく言うと、神さまとの関係が、まったく新しくされるということです。

聖書はこう語ります。

ヨハネ1:12-13 しかし、彼(イエス)を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。それらの人は、血すじによらず、肉の欲によらず、また、人の欲にもよらず、ただ神によって生れたのである。

今日、実に「霊」のことがらが、神さまとの新しい関係に入れていただける恵みについて語っているのだと、そう覚えていただきたいのです。

II. 語られる神秘を聴く

3:11 よくよく言うておく。わたしたちは自分の知っていることを語り、また自分の見たことをあかししているのに、あなたがたはわたしたちのあかしを受けられない。

3:12 わたしが地上のことを語っているのに、あなたがたが信じないならば、天上のことを語った場合、どうしてそれを信じるだろうか。

ニコデモにとって、受け入れきれなかったイエスさまの言葉ですが、それはそもそも、神の真実を信じて聞き取り受け入れることで、受け止めることができるようになる言葉…。聖霊によって聞き取り、受け取るべき言葉です。

「神秘（奥義）」という言葉。それは神さまのなさる、神さまの領域の事柄です。その恵みがどれほど大きいのか、その愛がどれほど私に向けられているか…、神さまのご計画がどれほど私たちに対してい真実か、そこに信じてはいつてみるとき、わかってくるものと言えるでしょう。

1コリント2:7-10

わたしたちが語るのは、隠された奥義としての神の知恵である。

1コリント2:9-10 (LB)

「人が、これまで見聞きしたことも、想像したこともないほどすばらしいことを、神は、ご自分を愛する人々のために用意してくださった。」私たちには、このすばらしいことが何かわかっています。神様がご自分の聖霊を通して知らせてくださったからです。神の霊は、神の最も奥深いお考えを探り出して、それを教えてくださるのです。

いいや、そんなものなくても私にはわかる！という人もいるかもしれませんが。

ある程度はわかるように思うかもしれませんが。でも、本質に近づけない。たとえば、結婚について、異性について、色々本を読んで、参考書を読んでいたとしても、それで、相手を、そして結婚をわかるとは言えません。

むしろお互いの違いに真摯に向き合って、”愛することファースト”で初めて相手を知り、相手から学ぶ。そうやって、お付き合いの時代とは違う、結婚という新しい関係を築きあげて行き、そこで結婚生活がをわかるようになっていきます。

だから、聖書は繰り返しお勧めするのです。イエス・キリストを、あなたの救い主として信じて受け入れてください。その新しい関係から始まる祝福がありますと。

Ⅲ. 恵みに心を開く

ここで旧約聖書民数記であの出エジプトを経験したイスラエルの民が経験した失敗と救いの記事が挙げられています。

失敗というのは、神に対する反発。救いというのは、赦しの出来事でした。

(民数記21:4-9)

神様が導いて約束の祝福の地へ導く道のりで、彼らは不平を鳴らし始めました。神さまは蛇を送り、かまれた多くの者が死にました。彼らはモーセのところに行ってとりなしを祈ったところ、神さまから言われたのです。

民数記21:8-9 (LB)

…「銅で毒蛇の複製を作り、竿の先に掲げなさい。かまれた者で、わたしの言うとおりに、それを見上げる者は助けよう。」

モーセはさっそく蛇の複製を作り、竿の先につけました。かまれた者で、それを見上げた者は一人残らず治りました。

あの竿にかけられた青銅の蛇を見ることによって治ると言われた人々が、すべてその青銅の蛇を見上げたわけではなかったことが分かります。

ある人は、そんなばかばかしい、自分の経験ではありえない…と受け入れなかった人もあったでしょう。

この出来事は象徴的です。イエスさまは言われました。

3:14 そして、ちょうどモーセが荒野でへびを上げたように、人の子（イエス・キリスト）もまた上げられなければならない。

これはイエス・キリストが、かけられたあの十字架を象徴しているのです。

全世界のすべての人の罪をすべてその身に背負われた神の子イエス・キリストの十字架の死。それによってすべての罪は、贖われ私たちは、赦しを受け取ることができます。つまり信じて、この方を見上げる時に、その成就された赦しと救いを受け取ることができるということです。

ですから15節にこうあります。

3:15 それは彼を信じる者が、すべて永遠の命を得るためである」

さいごに)

アメイジング・グレイスの作者のジョン・ニュートンは、かつて奴隷商人として名をはせた人でした。

この人について、少しだけお話しするならば、これほど悪い奴はいない！！とはっきり断言してもよいほど、悪い奴だと言えるでしょう。

そんな彼も救われた。すべては神さまの恵みです。

彼は、イエス・キリストを、罪びとの自分の罪をゆるし、新しい人生を与えるお方であると信じて、新しい関係の中に入り、救われたのです。

ですから彼の歌詞の一節にこうあります。

神さまの恵みによって、わたしのようなみじめな人間も救われました。 …
信じる事を始めたその時 神の恵みのなんと尊いことか。

改めて、あのユダヤ人の教師ニコデモに向かい、「新しく生まれること」を伝えたイエスさまは、彼をも信じて、神さまとの新しい関係にはいり、そしてその永遠の命、永遠の祝福に入るようにと招いておられるのです。

3:15 それは彼（イエス・キリスト）を信じる者が、すべて永遠の命を得るためである」。

3:16 神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。

ここに、わたしたちが信じて受け取るべき、驚くべき恵みがあります。

これが、皆さんにも向けられている、神さまからの、そしてイエスさまからの、愛の招きなのです。